トピック①

群馬革新懇主催・教育ネットぐんま協賛

「教育委員会制度の『大変質』は何をもたらすか」シンポジウム

5月31日（土） 午後1時30分～4時30分　　前橋市総合福祉会館2F「社会適応訓練室」

表記のシンポジウムが5月31日午後、群馬革新懇（群馬の明日をひらく革新懇話会）主催、教育ネットぐんま（憲法・1947教育基本法・子どもの権利条約を生かす教育ネットワークぐんま）協賛で開催され、諸日程重なるなか50人が参加しました。

◆ 主催者の嶋津良夫群馬革新懇事務局長は開会のあいさつで「戦争する国づくりに向かっている安倍首相は教育の国家統制にも執念をもやし、教育委員会制度の“大変質”を図ろうとしている。しかし、教育委員や教育長アンケートや世論は、首長の教育への政治的な介入に賛成はしていない。法案は参議院に入り多数で強行される情勢だが、シンポで教育委員会制度の本来あるべき姿を共通認識にしていきたい」と述べました。

◆ 針谷正紀教育ネットぐんま事務局長は「基調報告」で、教委制度の歴史と形骸化の実状を述べ、国会にかけられた「教委制度改変の３つのポイント」をレジュメを示して指摘しました。そして、「子どもや教職員の誇りと夢を大切にしない教育、教育の場からおおらかさが失われていくとき、教育は歪み、失敗する。シンポでの討議の深まりの中で私たちが求める教育改革の在り方が明らかになることを期待します」と結びました。

◆ パネラーは石田清人さん（中学校勤務・全群教委員長）、根岸みちるさん（検査技師・桐生いじめ自殺事件の地元住民）、守隨吾朗さん（邑楽館林教育ネット）に、コーディネーターを兼ねた加藤彰男さん（群馬子どもの権利委員会事務局長）でした。

★石田さんは、「現場は子どもに向き合い、多忙そのもの。教育委員会や委員は知らない状況。しかし、人事制度など上意下達は貫徹している。分かりやすい言葉で教委制度問題も話し合いたい」と発言しました。

★加藤さんは、「教育委員会へのアンケートや訪問・懇談で、『市民の声を聴く姿勢』は見えるが、子どもの権利条約を生かす積極性は見えない」と報告しました。

★根岸さんは、地元で起こった「いじめ自殺事件」の詳細を裁判の3・15判決を通して紹介し、「誰が子どもを守ってくれるのか、教育委員会は安心や安全の力を示してほしい」と発言しました。

★守隨さんは、詳細な資料を配布し、「教育委員会は全国画一化しているように見えるが、現実には各自治体の血のにじむような努力で、独自性を保とうとする運動がある」と指摘し、地域や父母の共同と「犬山の子は犬山で育てる」実践が続けられた「犬山の教育」を熱を込めて語りました。

◆ 最後に針谷さんは「教育の当事者である教職員、子ども、保護者と力を合わせ、最前線で実践していくわれわれが、対決しながら共同し新しい提言をしていくスタイルを貫くなら、今の状況は克服できる」と訴えました。

◆ シンポジウムの感想文からは、「犬山の教育についてさらに学んでいきたい。学校を子どもが主人公になり学びあう場にするため、やれることを是非やりきっていきたい。戦争する国づくりのための改悪を許してはいけない」「文科省、県市町村教育委員会に親たちは教育を任せるのではなく、個々の教師に付託していると思います。親と教師集団の交流を深めることが、国の教育政策をストップさせる力になるのではないかと思う」「桐生いじめ自殺事件判決文は衝撃的でした。いじめられ続けた明子さんの気持ちを想像すると胸が締め付けられそうです。周りの子どもや大人が守ってやることができなかったのが本当に残念です」「『こういう教育委員会制度にしていこう』という国民的合意が得られるような運動の方向性として『おさえ』が弱かったように思います」などが寄せられました。

《 文責：嶋津 良夫 》